
~ IS ~ もう一人の創造者

八雲さん家の食事当番

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～IS～もう一人の創造者

【Nコード】

N5363X

【作者名】

八雲さん家の食事当番

【あらすじ】

ISの産みの親は束ではなく…

「……甘い物」

甘い物好きで束以上のマッドサイエンティストだった。

プロローグ（前書き）

不定期更新……まあ、頑張ります

プロローグ

ISは最初、誰からも興味を持たれなかった。

そのISが世界に広まったのは大規模な事件の後からである。

『白騎士事件』それがISが広まった原因となる事件であった。

ISの産みの親とされる篠ノ之束の家族は政府の監視下に置かれることになった。

しかし、ISの本当の産みの親は篠ノ之束では無かった。

篠ノ之束から事情を聞いている時に本人が発した言葉だ。

『本来なら君達みたいな屑に言いたくないけど【あの人】との約束だからね。これだけは言っとくよISの産みの親は【No.0】か【1】って名乗ってるよ』

政府は埒が明かないと判断。拷問にかけてでも吐かせようと計画したその日の夜、事件が起きた。

ISの歴史上で最も有名な【赤い彗星事件】である。

その事件とは、篠ノ之束を隔離していた部屋が【謎の赤い全身装甲のIS】によって破壊され篠ノ之束を連れ去られた事件である。

名前の由来はその後、各国から赤い彗星を見た事による。

それ以降、篠ノ之束と謎の赤いISを見た者はいない。

↓数年後…アメリカ某所↓

ここはアメリカとオーストラリアの共同IS研究所兼育成所。
その施設のある部屋の前で二組の女性が立っていた。

「ねえ、ナタル。彼を最後に見たのっていつだったかしら…」

「私は、2週間前ね。イリス貴女は？」

「私も同じよ」

イリスと呼ばれた銀髪の女性とナタルと呼ばれた金髪の女性は顔を見合わせ勢い良くドアを開けた。

すると、そこには壁一面の黒板や起動している15台のPCに複雑な数式が載っており床には沢山の紙が散らばっていた。その部屋の真ん中に身長約140?の少年が寝転がっており少年は、黒いズボンに上半身が裸でその上に白衣を着ていた。

「「はあ……やっぱり」」

二人は紙を踏まないように少年に近づく
そして、イリスと呼ばれた女性が少年を起こす。

「ほら、ユー起きない」

「……………んっ……………」

ユーと呼ばれた少年は眠そうにしながら立ち上がる。

「じゃあ、食堂に行くわよ」

「ええ」

「……甘い物」

「はいはい、分かってるわよ」

右手をイリス、左手をナタルに握られて食堂に向かうユー。

ユーの長い銀髪の間から見えた彼の頬には【N o ・ 0】と書いてあった。

主人公設定（前書き）

さて、次の話ががんばるぞ

主人公設定

名前

ユークリウッド・リオンL・タイムD・ヘルサイズ

性別

男

身長

約140? (本来は180?)

容姿

銀髪の紅と蒼のオッドアイ

よく女の子に間違えられる

性格

冷静で無口で無表情だが心を許した人には変える。

特技

発明、家事全般、運転、ガーデニング、ピアノ、ヴァイオリン等

備考

ISの産みの親にして東と千冬の親友。

オーストラリアと大手IS会社の代表であり王族の長男。

オーストラリアでは彼の事を知らない人はいない程、有名である。
束以上のマッドサイエンティストで自分の身長を薬で縮めている。
彼の作る物は常識を越えている。

因みに本来の姿は身長180のイケメン。

年齢は18歳

第一話『……………僕……………いや俺が【?0】だ』（前書き）

サブタイトルに深い意味はありません（笑）

文才……………落ちてないかな

第一話『……………僕……………いや俺が【？0】だ』

ナタルとイリスから食堂に連れてこられたユー。

ユーはさっきまで眠そうだったが、食堂から漂う匂いに反応して意識がはつきりしていた。

食堂に入るとナタルはパスタ、イリスは和食Bセット。

そして、ユーは……………

チョコレートケーキ、ショートケーキ、モンブランをワンホールずつとシュークリーム、たい焼き、カステラを30個ずつ。最後に、アイスクリームを3・5?と甘い物オンリーのメニューを頼んだ。

「……………（もきゅもきゅ）」

「相変わらずの甘い物好きね」

「はぁ……………父様達から他のも食べろって言われてるのに」

無心で甘い物を食べてるユーを尻目にナタルが苦笑い、イリスが頭を抱えて溜め息をついた。

ナタルとイリスが食事をしながら雑談をしている真ん中で無心で食べていたユーは残りアイスクリームだけとなっていた。

ユーがアイスクリームを食べようとした瞬間

「ユーくん、イリスー、室長が呼んでるよー」

「…わかったわ。ほら、ユー行くわよ」

「…姉さん…待つて…まだ、アイス…食べてない」

ユーが手元のアイスに視線を戻すと…

「ユー君、アイスは私が預かつとくから行ってらっしゃい」

ナタルがユーのアイス（重さ3.5kg）を抱えて手を振っていた。アイスが——と心の中で嘆いていると、肩に担がれるようにイリスに連れて行かれた。

〈室長室〉

薄暗い中、龍の名前がつくヤクザゲームの中に登場する情報屋みたいにPC画面が一面に広がっている部屋（だが、ユーの部屋ほどではない）にイリスといまだ担がれたままのユーが入る。

「失礼します」

「…します」

ユー達の目の前に座っていたのは二人の女性だった。

一人は、薄いピンク色の髪をしてもう一人はユー達と同じ銀色の髪をしていた。

二人は銀髪の女性を見るとイリスは驚きで目を見開き、ユーは自分の本能が危ないと告げており冷や汗を垂らしていた。

「久しぶりね、二人とも」

「…母様今まで何をしていたのですか」

「まあ、話は後でね……………ゴホン…ヘルサイズ家当主として二人に命じます。ユーは生徒としてイリスは教師としてIS学園に行きなさい」

———めんどくさい…軽く空気になっていたユーは部屋から見える開発途中のISを見て、これから自分に起こるであろう不幸を考えていた。

第2話 『……学校なんて……嫌いだよ』（前書き）

遅くなつてすみません（；ω；）

色々ありまして色々

第2話 『……学校なんて……嫌いだよ』

ユー達が母親からIS学園に行けと言う指令が入ってから約5時間。

二人はヘルサイズ家の自家用飛行機に乗りうとしていた。
しかし、ヘルサイズ家には運転士などはあまり居ない。

理由は簡単、ユーが全て運転するからである（勿論、ユーの身長は元の180？に戻っているが）。

「姉貴！速く来いよ」

自家用飛行機の運転席からイリスに手を振る男。
信じられないだろうが彼はユーである。

彼は身長の変化に伴い性格もコロリと 変わってしまった。

小さなユーは身内と知り合い以外とはあまり喋ろうとしないが、
大きなユーは必要最低限のことは喋る。

「ハイハイ……今、行くから」

イリスは、出来るだけ急いで乗りシートベルトを厳重につける。
それは何故か、別にユーの運転技術が悪いわけではなく、ただ速い

だけでシートベルトを軽くしていると危ないからである。

「じゃあ、行こうか」

ユ一は離陸を始める。

そして、舞台はIS学園に移る。

～IS学園付近の飛行場～

IS学園の近くにある飛行場。そこには、女性もののスーツを着た女性と明らかに自分の体格とあってない服装をした女性が立っていた。

「……………織斑先生…本当にもう来るんですか？」

「……………ああ、絶対にな」

「で、でも転入生達が出たって連絡が来たのは25分前ですよ」

……………流石にオーストラリアからは……………と女性が呟やくと

「山田先生」

もう一人の女性がその女性の肩を掴み真剣な表情で見る。

「は、はい！」

「……いいか、今から来る内の一人は……異常だからな」

—どういう事ですか？……かと山田が聞こうとした時

キイイイイン

南から真っ黒に金色の模様が入った飛行機が飛んできた。

そして、飛行機は女性達の約400m前で止まった。

「……久しぶりだな……【L】」

「………久しぶり………ちーちゃん」

最強と天才が今ここに再開した。

アンケート(訂正) (前書き)

見ればあゝ、わか~~~~るう

(訂正しました)

アンケート（訂正）

えーと、まずは

【オリ主君のクラスをどうするか？】です。

次の3つから1つ選んでください

？1年1組　一夏君と一緒に

？1年3組　オリキャラだらけ

？1年4組　簪さんとオリキャラ一緒に

皆さん投票よろしくです？

ここからは文字数稼ぎです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5363x/>

～IS～もう一人の創造者

2011年10月23日20時13分発行